

令和 8 年ホヤ類調査結果速報 No. 1

令和 8 年 6 月 23 日

北海道立総合研究機構函館水産試験場

※この速報は函館水試HPでも見ることができます。

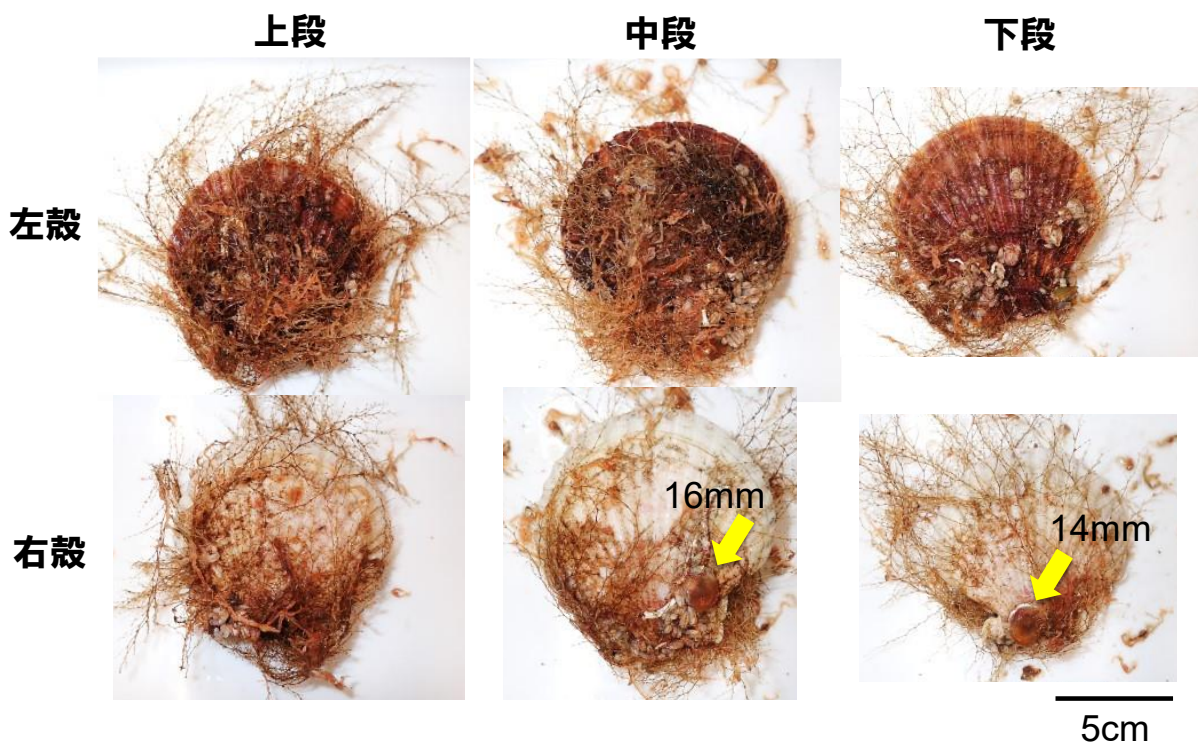
【アドレス：<https://www.hro.or.jp/fisheries/research/hakodate/index.html>】

6 月 18 日に渡島管内八雲町内浦地区で耳吊ホタテガイ付着物調査および海洋環境調査を実施しました。

結果概要

- **令和 8 年度調査を開始。今年度は八雲町内浦地区が調査点**
昨年度は同町黒岩地区で調査を実施しましたが、今年度は例年と同様の内浦地区が調査点となります。
- **ヨーロッパザラボヤの付着を確認**
ホタテガイ 15 枚を調べたところ、体長 5mm 未満が 1 個体、体長 10mm 台が 2 個体確認されました。
- **深度 5m より深い層では産卵開始水温を下回る**
深度 5m よりも深い層では産卵開始水温（13℃）未満であり、表層付近に生息する個体を除いて、大半のホヤは産卵していないと考えられます。

写真 ホタテガイに付着したヨーロッパザラボヤ 令和 8 年 6 月 18 日 八雲町内浦地区



問い合わせ先：函館水産試験場調査研究部 水上・馬場 TEL：0138-83-2893

※本調査および情報配信は特定非営利活動法人水産業・漁村活性化推進機構から委託された令和 8 年度有害生物（ザラボヤ）出現情報収集・解析及び情報提供事業で実施しています。

耳吊りホタテ貝付着物調査

【調査月日：6月18日、調査場所：八雲町内浦沖、採取数：上中下層 各5枚】

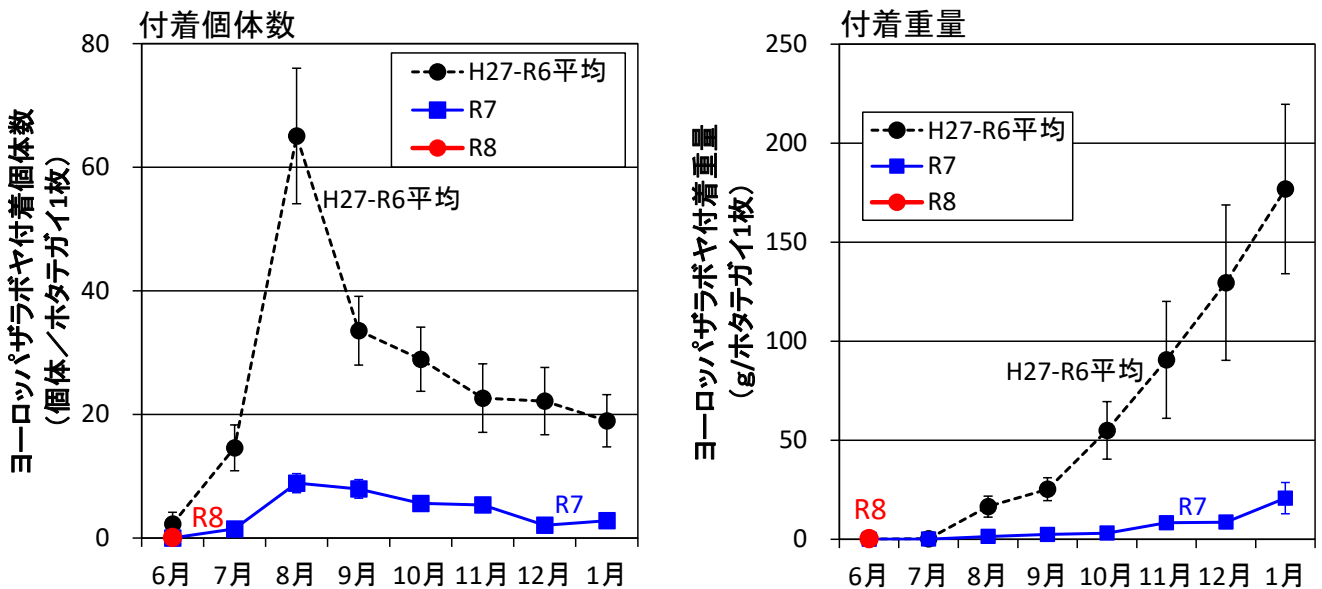
ホタテガイを上層、中層、下層から5枚ずつ抽出し、肉眼及び実体顕微鏡を用いて、付着物を調査しました(写真)。ヨーロッパザラボヤの平均付着数はホタテガイ1枚あたり0.2個体でした(表1、図1)。また、付着したヨーロッパザラボヤの体長は5mm未達が1個体、10mm台が2個体確認され(図2)、前者は最近付着したとみられます。

水温は深度5mよりも深い場所ではヨーロッパザラボヤの産卵開始水温(13℃)未満であり、表層付近や水深の浅いところに生息する個体を除いて、大半の個体は産卵を開始していないとみられます(図3)。例年、7月から8月にかけて付着数が大きく増加するため(図1)、今後の付着数の増加を注視していく必要があります。

表1 付着生物調査結果(八雲町内浦地区：令和8年6月18日)

ホタテガイ1枚あたり平均付着数量	上層	中層	下層	地区平均
全付着物重量	13.0g	11.9g	6.2g	10.4g
ヨーロッパザラボヤ	0.0g	0.1g	0.1g	0.1g
その他	13.0g	11.8g	6.2g	10.3g
ヨーロッパザラボヤ個体数	0.0個体	0.4個体	0.2個体	0.2個体
令和7年6月(R7.6.24)の個体数	0.0個体	0.0個体	0.0個体	0.0個体
令和6年6月(R6.6.26)の個体数	0.0個体	0.2個体	0.6個体	0.3個体
令和5年6月(R5.6.14)の個体数	0.0個体	0.6個体	0.2個体	0.3個体

図1 ヨーロッパザラボヤの付着量の季節変化



左：ホタテガイ上のヨーロッパザラボヤ付着個体数の季節変化

右：ホタテガイ上のヨーロッパザラボヤ付着重量の季節変化

各月のデータは全層(上層、中層、下層)の平均値で示しています(縦棒は標準誤差)。

図2 ヨーロッパザラボヤのサイズ組成（八雲町内浦地区：令和8年6月）

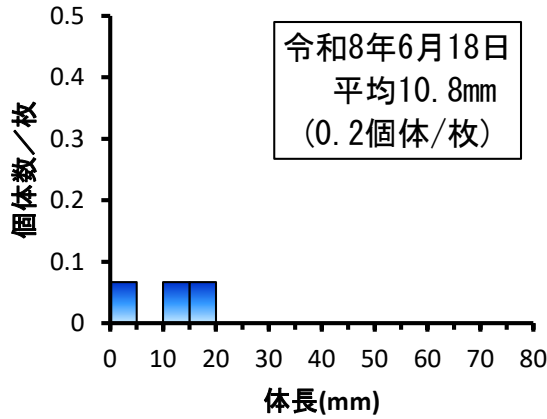
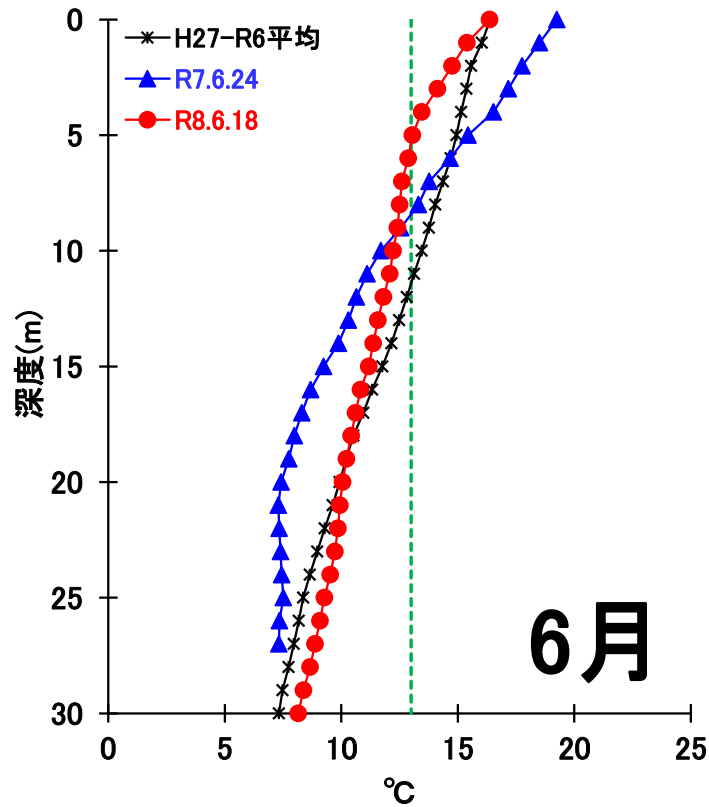


図3 調査地点近傍（八雲沖3マイル）の令和8年6月18日の水温の鉛直分布

● : R8年、▲ : R7年、× : H27-R6平均 --- : ヨーロッパザラボヤの産卵開始水温 (13°C)



今年度の見通し

これまで蓄積されたヨーロッパザラボヤの付着状況調査のデータについて整理したところ、その年の付着数の最高値は、前年度調査の1月の付着重量が重いほど、また、その年の8~9月の平均水温が低いほど付着数が多くなる傾向がわかりました（試験研究は今 No.1044：<https://www.hro.or.jp/upload/56146/ima1044.pdf>）。令和7年度の1月調査の付着重量は過去平均を大きく下回っており（図3）、例年と比べて、今年度の付着数は低水準になることが見込まれます。ただし、今後、8~9月にかけて水温が低くなるようであれば、ヨーロッパザラボヤの付着数が増加する恐れがありますので、今後の水温動向も注視していきましょう。